

台風接近に伴う農作物等の技術対策

【野菜】

1 事前対策

冠水や浸水の恐れのあるほ場は、排水対策を行う。

海岸沿いのほ場は、潮害に備えて散水用のスプリンクラー等の点検整備を行うとともに水源を確保し、水が不足する恐れがある場合は可能な限りタンク等に水をためておく。

<露地野菜>

- (1) 収穫可能なものは台風接近前に収穫する。
- (2) 支柱や防風ネット、マルチを点検・補強する。

<野菜苗（イチゴ苗除く）>

- (1) 未定植の苗（ポリポット、セル成型苗）は倉庫等の安全な場所に搬入する。
- (2) 露地の苗床では、風でとばされないよう寒冷紗をべたがけする。

<イチゴ>

- (1) フィルムや寒冷紗を被覆している育苗床や本田は、被覆資材を取り外す。
- (2) かん水施設の破損等が予想される場合は、取り外して片付ける。
- (3) 定植していないポット苗や親株は、コンテナに入れて安全な場所に移動するか、寒冷紗等で被覆し四方を押さえる。
- (4) 棚育苗床は、架台を補強する。また、苗の損傷を少なくするため、架台全体を寒冷紗で囲み固定する。
- (5) 定植準備のために本田地表面にフィルム被覆している場合は、飛ばされないように固定する。
- (6) 高設栽培施設は、架台を補強する。また、定植している場合は、株の損傷を少なくするために架台全体を寒冷紗等で囲み固定する。

<施設野菜（被覆フィルムを除去した場合）>

- (1) かん水チューブは取り外し片付ける。また、頭上かん水施設は、マイカー線等で固定する。
- (2) アスパラガスの被覆フィルムを除去する場合は、支柱を堅く打ち込み、支柱とハウスパイプをマイカー線等で強く固定する。

2 事後対策

台風通過後は、殺菌剤を散布する。冠水や浸水したほ場は速やかに排水を促し、茎葉に付着した泥等を真水で洗い落とす。また、潮風により作物に付着した塩分

は分量の真水で洗い流す。

<露地野菜>

- (1) 支柱や防風ネット、マルチを点検・補修する。
- (2) 株元が露出したものには、台風通過後に土寄せする。

<野菜苗、イチゴ>

- (1) 株に被覆していた寒冷紗等は、台風通過後、速やかに除去する。
- (2) イチゴ苗の定植が大きく遅れる場合は、薄めの液肥等を施用する。

<施設野菜>

- (1) 台風通過後は、高温による蒸れや葉焼け防止のため、速やかにハウス換気を行う。
- (2) 株が倒伏した場合は、直ちに株を起こす。